

平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

1. 学校概要

学校名 北海道教育大学附属札幌小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()

所在地 〒002-8075
札幌市北区あいの里 5 条 3 丁目 1-10

E-mail sap-fusho@s.hokkyodai.ac.jp

Website <http://fuzoku-sho.sap.hokkyodai.ac.jp/>

児童生徒数 男子 209 名 女子 225 名 合計 434 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☒ エネルギー
- ☒ 防災
- ☐ 食育
- ☐ 伝統文化
- ☐ そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

A：防災

本校職員 2 名が、アクサ・ユネスコ協会減災教育プログラムに参加し、被災地の状況や減災教育の実際を学び、避難訓練などに生かした

①防災宿泊・引き取り訓練：災害時を想定し、より体験的に学ぶ

毎年9月に行う避難訓練は、隔年で防災宿泊訓練（3年～6年）を実施している。年間6回行う避難訓練の1回分をこの日に充て、より具体的な災害をイメージして訓練を行う。非常食を食べ、学校に宿泊することで、災害時における生活環境の変化を体験的に学び、そのことが防災を意識し、減災について自分の出来ることを考える児童を育てると考えている。

訓練後の職員の減災に対する意識の高まりが見られる。今後に向けての課題は以下の通り。

- ・ 今後は、災害の想定をより具体的に
- ・ 災害に備えて準備すべき物品を計画的に購入する
- ・ 宿泊訓練の時期や対象学年等、想定される災害と絡めて検討

②命と安全を守る授業：年間5回、全校一斉にテーマを決めて実施

もしもの時にどのように行動すればよいのかといった危機回避能力の育成や、災害が起こった時に被害を最小限にする方法や事故や犯罪等の被害に遭わないための行動の仕方などを、全学年で一斉に指導している。9月のテーマを「火事・地震・津波などの災害について」とし、防犯宿泊訓練と関連させてより体験的に災害について考えられるようにしている。27年度は、札幌管区気象台の方を講師に招き、地震と津波の基礎知識と防災の取組について出前授業を実施した。

指導案や板書計画の蓄積により、子どもが命と真剣に向き合う授業が展開されている。

- ・ 年間カリキュラムの作成により 防災を系統的に学習
- ・ 命を守るために自分ができることを考える子どもの姿
(暴風による電車の不通時、高学年児童が低学年を守る様子が見られた)

③被災地視察：被災地での経験を教職員と共有

2名の教員が気仙沼を視察し、現地の小・中学校の授業を視察したり、減災教育に対する行政の考えや人々の意識に触れたりすることができた。大災害を経験した人々の災害を最小限に抑えていくための取り組みは、より具体的でより切実なものである。そうした現地の様子や減災に対する人々の意識等を職員に報告する場を設け、本校での防災・減災教育への今後の在り方について検討することができた。

- ・ 本気で防災・減災について考える必要性を痛感
- ・ 被災地の現状を共有することの難しさも実感
- ・ 本校に必要な防災・減災教育プログラムの確立を目指す

B：国際理解

本校職員がアジア・ユネスコ協会提供の韓国政府日本教職員招へいプログラムに参加し、韓国の様子を児童に提供した

①全校朝会：韓国の紹介及び多様な考え方を認めることの大切さについて

本校がユネスコスクールに認定されて9ヶ月。児童にユネスコスクールについて再度、説明した。そして、その活動の一環として、8月末に韓国で小学校児童とふれ合った内容について写真を交えて解説。そのときの様子やそこで感じたことを紹介した。特に韓国の小学生とのふれ合いや自分が授業をしたことについて（下記参照）詳しく説明した。

- ・日本の小学生と違いがないこと
- ・非常に親しみのあるかわいい子どもたちであったこと
- ・日本の小学校の様子にとっても興味をもっていたこと
- ・本校児童と同じように、けん玉やコマに興味をもっていたこと

などについて伝え、国が違っても同じアジアの国であり、様子に大きな違いはないというメッセージを伝えた。そして、様々な情報に溢れている世の中においても、「自分の目で事実を確かめること」の大切さを児童に伝えた。

②職員会議：韓国の日本人に対する感情について・意見交流

竹島問題や慰安婦問題など、ニュース等では日本と韓国の関係についての負のイメージが伝えられることが多い。そのため、日本国内で情報を得る人たちは、韓国に対する偏見をもつ傾向が見られる。マイナスのイメージを抱かせる情報も多いが、現実は大きく違った。そこで、職員に対して、報道で伝えられていることとの実際目で見てきたことのギャップについて伝えた。

- ・韓国の学校職員との交流
- ・小中学生の様子
- ・高校生との交流
- ・街中の日本人に対する様子
- ・ソウルでは英語よりも日本語が通じること

上記のように具体的に韓国の人や街の雰囲気写真を紹介し、日本に対するマイナスイメージがほとんど感じられなかったことを伝え、断片的な情報に惑わされないことの大切さを述べた。また、韓国の教育方針がセウォル号の事故以降に変化してきていることを紹介し、国際理解教育の重要性を確認した。

③5年社会科「工業生産と貿易」

日本がたくさんの国と関わりあっていることについて次の視点で学習を進めた。

- ・海外とのつながりが途切れると日本国内の生活に困難が生まれること
- ・輸出入のバランスや輸入元の地域の偏りによって状況は変化してしまうこと

国内で必要とする資源については、上記の問題点が大きく関係することに目を向ける学習となった。

C：環境・エネルギー

① 6年理科「電気の利用」

LEDと豆電球の消費電力を比較する活動から、自分たちにできることを考えた。また、ドライヤーなどの、電気で熱を発生させるものの消費電力の大きさを学んだ。ものによる電流の大きさの違いだけではなく、家庭で電気を使うという視点を常にもたせて実践をしたことで、ESDにつながる考え方を引き出した。

- ・家庭内の電球をLEDに交換するべき
- ・ドライヤーなどの熱を出す製品はとても電気を使うので、使う時間を短くした方がよい。

② 6年理科「生き物と環境」

光合成がどのように自然のサイクルの中に位置付くのかを、実験を通して学習。地球温暖化の事実を前提に学習を進めた。ポトスが酸素を生み出すことを実験で確かめながら、植物の存在意義や、温暖化防止の観点から、自然のサイクルを考える姿を引き出した。

③ 6年総合的な学習「ベストミックス」

多様な発電方法を知りその利点や欠点を解説。また、過去と現状について紹介した。その上で、これからどのような発電構成が望まれるのかを考え、子ども自身のベストミックスについて意見を交流させた。

- ・どれか一つに頼ると問題が大きくなってしまうから、バランスを考えた方がよい。
- ・これ以上二酸化炭素を増やしてはいけないと思う。
- ・災害にあった人のことも考えなければならない。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（全校朝会・防災宿泊訓練）